



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 山本憲慈

第九号

平成二十五年十一月一日発行

真言宗豊山派 発行責任者 山本 憲慈
佐渡宗務支所 編集委員長 大場 憲栄

発行所
新潟県佐渡市赤玉六四八
文殊院中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

就任のご挨拶

真言宗豊山派佐渡宗務支所支所長 山本 憲慈

このたび佐渡宗務支所下寺院住職のご推薦を頂き、就任して以来六ヶ月になりますが、各寺院総代始め関係各位から多大なご支援・ご協力を頂いて順調に諸活動並びに業務を執行させて頂いておりますことに衷心より感謝申し上げます。

平成二十四年六月に真言宗豊山派管長・総本山長谷寺化主に就任されました加藤精一(猊下(げいか)は、「現在の世相を見ておりますと、これは皆様も同様のお気持ちでしょうが、人々の人間らしいうらおいがうすれ、心の平和と安定を見失っている人が多いように思います。こうした時こそ、正しい信仰、健全な宗教が必要なのであります。私たちの信奉する真言宗の主張、弘法大師の教えは、心の平和と安定をとり戻すための最上の特效薬であるといえましょう……」と申され、今真言宗僧侶が果たすべき役割を示してくださいました。私たちを取り巻く社会は益々複雑で多様化し価値観の変化、檀家と菩提寺の関係が希薄に向う中であつて、寺院住職の責務は重大であります。

佐渡宗務支所ではその使命を再認識し、檀信徒の期待に応えられるよう

自らの意識改革に努め、寺院住職・教師・仏教婦人会や仏教青年会と連携強化を図りつつ、檀信徒の方々と一緒になって弘法大師に帰依し「みおしえ」を宣揚して、信頼関係を深めることができませんよう研鑽して参りたいと思つているところです。

まことに未熟微力ではございますが檀信徒の方々のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



支所長 山本憲慈

「飛べ！ダコタ」に観る観音さまの慈悲

真言宗豊山派佐渡教区

布教師会会長 大場 憲栄

今、日本全国の映画館で「飛べ！ダコタ」が上映され、大きな反響と深い感動を呼んでいます。同時に佐渡と佐渡人の良さや温かさが再認識されたことと思います。

この映画は、終戦5ヶ月後の昭和二十一年一月十四日島内の高千村に英国の軍用機(ダコタ)が不時着した際、太平洋戦争で身内を亡くした多くの村民がいるにもかかわらず、敵国への憎しみをのりこえて英国の軍人を世話し、村民が協力して海岸に滑走路をつくりダコタを飛び立たせることが出来た実話をもとに、島内で撮影されたものです。この映画の中で高千村長役の柄本明さんが「天皇様から罪人まで困っている客人を助けてきたのが佐渡もんら」と言つて乗員とダコタを救うことを決意しますが、これこそ慈悲の教えそのものであり観音さまの御心に違いないと感じました。

慈悲は、「他者の悲しみや苦しみをわかつてあげ、救いの手をさしのべる」という人間に特有の仏心といふべきものであります。そしてこの慈悲を御姿で現わしている仏さまが観音さまであり、私たち人間は皆観音さまの御心を抱いているといえます。

この映画が世界各国で上映され、世界中の人たちが全ての人間が持つている慈悲の心に気づいて、憎しみや争い、戦争のない互いに思いやりの気持ちで生きていく平和な社会が、全世界で実現するようよう祈念いたします。



総本山長谷寺本尊大観音尊像

ぜひとも、檀信徒の皆様には総本山長谷寺の御本尊十一面観音さまをお参りいただき、観音さまの慈悲の御心が我々にも満ちあふれていることをご確信願いたい次第です。

全国檀信徒総代協議会出席について(報告)

支所下四十番 多聞寺総代 本間 繁

このたび、平成二十五年度の第六十五次全国檀信徒総代協議会に出席し、「信仰の山・学侶の寺」総本山長谷の源流を辿つて」について、講師の正大学教授で「聖天院住職・坂本正仁先生」の講演を聞き、私なりに長谷寺の歴史について、書かせていただきます。

「長谷寺」は、六八六年に川原寺の僧、道明上人が天武天皇の福寿を祈つて「銅板法華説相図」(国宝で奈良博物館)を作り、初瀬の西側の岡に三重の塔を建立し、そこに「銅板法華説相図」を安置したのが長谷寺の始まりであると考えられています。

道明上人は、「日本三大実録」などで語られる高僧で、天武天皇の勅を受けて飛鳥の弘福寺(川原寺)を創設した人物で、大官大寺(大安寺)、薬師寺、法興寺(元興寺)とともに飛鳥四大寺とされていた寺の一つであったようです。長谷寺の現在の本堂は、江戸時代、三代将軍徳川家光の寄進により慶安三年(一六五〇年)に建立されたもので、舞台造り形式で国宝に指定されています。

御本尊の観音様は、西の岡に長谷寺(道明上人)建立から四一年後の七二七年に、聖武天皇の勅を奉じて、徳道上人(道明上人の弟子)が東の岡に十一面観音立像の造営をはじめ、六年後の七三三年に三丈三尺六寸(約一〇m)の立像が完成し、その年に行基を導師として十一面観音の開眼供養が行なわれ、長谷寺は観音霊場としてあゆみはじめ今日に至っています。

その間に九回の火災にあつており、その都度焼けのこつた像の一部を胎内に納めて伝え続け現在に至っているもので、観音様の霊験はゆるぎないものとなっております。

以上雑ばくではございますが、全国総代会に出席いたしました総本山長谷寺について、とりとめのない文書で申し訳ありませんが、報告とさせていただきます。



多聞寺総代 本間 繁氏

仏教婦人会について

支所下二十三番 定福寺寺庭婦人
仏教婦人会会長 平井 園香

真言宗豊山派仏教婦人会佐渡支部は、昭和四十六年十二月十二日から活動を開始しています。

仏教婦人会規則第三条には、「この会は真言宗豊山派の教義を基として、慈悲と寛容の仏教精神に則り、会員相和樂し相互に仏教婦人として修養を積み円満な家庭と平和な社会をつくると共に、進んで会員の獲得と教義の宣布に努める。」とあります。諸先輩方の残してくれた記録を辿りますと、寺庭婦人として研鑽に励んでいる様子が伺い知れます。

主な内容として総会が開催され、その折に講師を招いての手芸品作りの講習会や会員親睦をかねて島内一日研修旅行をしたりしています。支所主催の講演会にも、同席させていただくこともあり。総会開始時には、心静かに歌詞の内容をかみしめながら、ご詠歌をお唱えします。

また、仏教婦人会の本部での講習会・講演会にも会員が参加することもあります。その中でも六年前に本部五十周年記念式典に七名参加できたことは本部との連絡が取れ、地方の活性化につながる一歩かと思えました。これからも機会があれば、本部の活動に参加していきたいと思えます。在家から何もわからないままお寺に嫁ぎ、寺庭婦人の仲間入りをさせていただき、諸先輩方の足跡を見るにつけ、会を維持して行くことの大切さを感じこの会だからこそ出会えた方々から色々な事を教わり、会員として共に過ごして行くことの大切さを感じています。より多くの会員が、当会に参加してくださることを願っています。

教義の宣布には程遠いですが、真言宗豊山派仏教婦人会佐渡支部の紹介をさせていただきますました。仏教婦人会の活動に注目していただきますように、宜しくお願いいたします。



平成二十五年檀信徒総代会講演会開催

講師 福島県第二号宗務支所 長安寺住職

横山 周豊 僧正

平成二十五年度の、真言宗豊山派佐渡宗務支所「檀信徒総代会」が、七月六日に実施されました。恒例の講演会は、仏婦の方々にも参加いただき「原発事故における檀信徒救護と教化について」と題して、東日本大震災における福島第一原発事故の発生で、大変ご苦労されている横山周豊先生にお願いいたしました。以下に、七月九日付の新潟日報に掲載された記事の一部をご紹介します。

『東日本大震災による原発事故で福島市に避難している福島県浪江町の長安寺住職、横山周豊さん(七二)が6日、佐渡市長谷の長谷寺で講演した。佐渡市の僧侶や檀家ら約五〇人を前に、横山さんは「放射線量が高い地域に自由に入らず、墓があっても納骨出来ずに困っている檀家が大勢いる」などと被災地の実態を語った。

講演会は、真言宗豊山派佐渡宗務支所(山本憲慈支所長)が、今夏に被災地を訪問する前に、現地状況を学ぶために開催した。

横山さんは原発事故の後、福島県内外に避難した檀家を訪ね歩いた経験を振り返り、「避難に伴う災害では、檀家の住所や固定電話の番号を記載している名簿は、あてにならない。(避難後も連絡が取れるよう)携帯電話の番号を把握しておく大切さが分かった」と教訓を語った。横山さんは浪江町から避難した後、福島市で一軒家を借りて寺の活動を再開。毎年八月



横山周豊僧正

に集団盆供養を行っているとし、「各地に散らばった檀家が集まり、再会を喜んでい」と紹介した。』
他にも、NHKのテレビやラジオで、広く県民に横山周豊先生のご講演の様子が伝えられました。

第三十七回青少年研修会開催

佐渡宗務支所 仏教青年会 会長 平田 恵順

さる平成二十五年七月二十七、二十八日に第三十七回青少年研修会が開催され、生憎の天候ながら無事終了。参加者は小学生八名、高校生(サポーター)二名の参加。法話、法の灯火、勤行等のプログラムをこなし、昨年から腕輪念珠、ローソク作りでは研修生たちの独創的なアイデアや生きいきとした集中力には感心することしきり。高学年の子が小さい子を気配り、ケンカもせず助け合い…皆、仏心が芽生えたのでは。二日間得た貴重な体験を生かして、これからも頑張れ研修生達。また、来年会おうね!



平成25年7月27・28日
於：佐渡市赤玉
文殊院道場

青少年研修会参加者作文

畑野小学校二年 余湖 悠月

わたしが研修会でのしかったのは、きもだめしと花火とながしそ
うめんです。どうしてかというときもだめしは奈那ちゃんとチー
ムになってまわりました。わたしはこわくなくて、奈那ちゃんはこ
わかったそうです。

あと、花火はきれいでたのしかったです。ながしそうめんは、つめ
たくてとてもおいしかったです。

寺院探訪

佐渡宗務支所下五番

瑠璃山 曼荼羅寺
るりざん まんだらじ

佐渡市沢根

住職

佐々木 成樹

曼荼羅寺は、佐和田沢根村から二見へと抜ける七浦海岸線を走行すると、羽二生集落を過ぎたあたりで右手に「曼荼羅寺前」のバス停が見え、ここを右折したところに佇んでいる。本尊は薬師如来で、昔、薬師堂にあつたものを明治二十三年（一八九一）火災の際に、現在の本堂に移されたと思われる。

当寺は応永元年（一三九四）沢根城主本間摂津守の祈願所として創建されたが、以後二度の火災を経て今日に至り、寛永元年（一六二四）鶴子銀山の隆盛期には、豪族中山一族が寺を再建し、多くの田地山林を寄進し寺領を増やした。現今の本堂は明治二十七年（一八九五）再建された。

当寺の什宝である曼荼羅図は金剛界、胎藏界と呼ばれる二幅一對の軸物で、主に仏教の儀式を行う際に本堂内に掛けて使用する。寄進者である中山宗祐は、中山家（河原田本町）大屋の初代中山元忠のことで、父中山元茂の遺命により真光寺などの諸所に堂宇を再建した人物である。当寺に伝わる曼荼羅図は、正保四年（一六四六）に寄進されたものと考えられる。また、寄進者の中山家の伝来、由緒等が明らかで年代の古い歴史的な資料であることから、旧佐和田町が平成十五年九月九日文化財に



曼荼羅寺 本堂

什宝両界曼荼羅図



金剛界

指定有形文化財に指定された。

胎藏界

指定し、その後佐渡市が引き継ぎ、平成十六年三月一日に佐渡市の指定有形文化財に指定された。

佐渡宗務支所下三十五番

神峯山 大慶寺
しんぼうざん たいけいじ

佐渡市金井新保乙

住職

近藤 浄太

開基、由緒は不詳。当寺は元、雲上寺と号し金北山別当であつた。天正年中に真光寺へ別当職転任の際、当寺の僧侶が別当関係の書類を携えて彼の地にて奉職世襲することとなった。

その後、当寺は河内國菅田八幡宮を勧請し一村の産土社（うぶすな）として社殿を築き、名を八幡山阿弥陀院長福寺と称した。天正年中の寺社改帳には、八幡別当長福寺とある。しかし、享保年中に今上皇子の御諱（いみな）を避けて名を大慶寺と改めた。当初は天台宗に属していたが、上杉景勝の佐渡改めによつて上杉の帰依する真言宗となった。

本尊は阿弥陀如来。本堂内には金北山の別当の名残り、不動尊を模したと思われる利剣、絹索（けんさく）を持った烏天狗像（からすてんぐぞう）が安置されている。



大慶寺 本堂



ツツジ庭園

毎年四月十五日、九月十三日には八幡宮の祭礼に合わせて、金井新保区協賛のもと、井前市、郷土芸能披露などを行っている。境内には茅葺、白壁の長屋門、本堂裏手にはツツジ庭園がある。

お知らせ

本年九月二十八日から三十日にかけて、多くの方が東日本大震災の津波によって犠牲となられた福島、宮城、岩手各県被災地への慰問訪問を実施しました。参加者は山本支所長他僧侶六名、檀信徒一名、運転手一名の計六名でした。詳細に関しては、次号の支所だよりで報告いたします。